



TITLE:

雜報

AUTHOR(S):

CITATION:

雜報. 經濟論叢 1938, 46(4): 649-650

ISSUE DATE:

1938-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/131077>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第四號 第四十六卷

昭和十三年四月一日發行

論叢

ソロキンの文化的變動形式論

文學博士 米田庄太郎

貨幣の本質とその價值

商學士 中山伊知郎

貨幣の本質について

文學博士 高田保馬

共同體思想の國民的性格

經濟學博士 石川興二

時論

稅制整理と増稅

經濟學博士 汐見三郎

研究

職分と職業

經濟學士 澤崎堅造

貿易理論の前提

經濟學士 松井清

ダンピングの理論

經濟學士 岡倉伯士

近世絞油業の發達

經濟學士 住谷勇二

說苑

明治初期の國內市場

經濟學士 堀江保藏

産業構造の研究と政策

經濟學士 田杉競

附錄

雜報：外國雜誌論題

(禁轉載)

雜 報

○來學年度授業擔任

來學年度外國經濟書擔當者左の如く變更內定す。

第一學年 講師佐波宣平。講師白杉庄一郎。講師島

恭彦。講師松井清。講師飯田藤次

英經濟書

第二學年 講師中谷實。講師佐波宣平。講師島恭彦

講師松井清。講師山岡亮一

第三學年

助教授蠅川虎三。助教授中川與之助。講

師中谷實。講師佐波宣平。講師飯田藤次

第一學年

講師中谷實。講師山岡亮一

獨經濟書

第二學年 助教授堀江保藏。講師白杉庄一郎

第三學年 助教授大塚一朗。助教授柴田敬

○經濟學會二月例會

二月二十四日(木)午後六時四十分より樂友會館に於て開催され、次記の報告が行はれ、閉會は十時半であつた。

一、ダンピングの理論 岡 倉 伯 士氏

二、一つの支那財政論 島 講 師

先づ岡倉氏はダンピングの純粹理論は、インテマ、ハーバラー、スツイゲティ、J.ロビンソン等に於て確立せられたことを指摘し、ハーバラー理論に重點を置きつゝ、彼に於て未展開な部分或ひは不正確な部分を指摘し、修正することに努められ、次の如く論述せられた。

第一にダンピングの經過的跡づけとしてのハーバラーの方法は不正確である。彼の方法に従へば究極的ダンピング均衡への過程に於ても限界賣上 \parallel 限界費用と云ふ法則が支配する。併し過程に於ては寧ろスツイゲティの云ふ限界賣上均等の法則が支配すると考へられる。

第二にハーバラーは彼の所謂問題提起Bを未展開のまま残してゐる。この點を最初に展開したのはロビンソンである。勿論ハーバラーの云ふ問題提起Aと問題提起Bとは究極の結果に於ては異なるところはない。たゞ分析の出發點を異にする。

第三にダンピング價格、限界費用、平均費用の關係に關するハーバラーの説明も亦不充分である。この點は周知の限界費用と平均費用との關係、個別需要曲線、引いては限界賣上曲線の性質及びダンピング均衡の條件式 $D_1 = D_2 = D_3$ を詳細に検討することに依てより一層明確になり、従つてダンピング價格下限の問題も亦同時に解決せられる。

第四に需要變動とダンピング價格變動との關係についてもまたハーバラーは論證を缺いてゐる。この問題に關する最初の開拓者はロビンソンである。

最後に從來のダンピング理論は、完全獨占と云ふ限界的事例を前提せるも、現實の市場は多かれ少なかれ獨立性を持った市場の網であるから、實際には不完全市場の前提に依る代置が要求されると論ぜられた。

次いで島講師は Pakong Chu なる一支那人の支那財政論を

紹介批判された。

原著者は支那財政の發展を民族資本の發展に關聯させつゝ、それが如何に現代財政の缺陷を克服して行くかと云ふ風な見地から取扱つてゐる。これはすぐれた問題提出の仕方ではあるが、吾々はまた著者の陷る民族主義的偏向にも注意しなければなるまい。例へば彼は公債、租稅制度に現れた半植民地的、半封建的性格を描き、これを改革する産業資本の推進力の足りない事を専ら帝國主義的侵略のせいにしてゐるが、この原因として舊官僚國家經濟の寄生的、買辦的性質も見落してはならない。尤も南京政府の成立と共に様々の財政改革が行はれたが、政府を指導する浙江財閥の性質や民族資本の發展と對立する列強の壓迫に依つて、その成功は困難であると論述された。

出席者。高田、谷口、中川、堀江、中谷、佐波、白杉、島、松井、山岡の諸先生。菊田、大谷、宮本、出口、澤崎、青盛、岡倉、鈴木、住谷、上村、堀江(英)の諸氏。

○會員 動 靜